

《学校教育目標》 ○思いやりのある子 ◎自ら学ぶ子 ○たくましい子



校  
報

あしっこ

令和3年度 6月

立川市立第九小学校  
校長 菊池 修  
立川市上砂町2-18-1  
TEL042-536-2231

## 言葉の環境づくり

校長 菊池 修

緊急事態宣言の延長に伴って、行事や取組の変更等が生じています。今月以降、宿泊行事も予定されています。宿泊施設等は感染防止策を徹底していただいています。国や都の方針によって大きく変わることが考えられますが、今の段階ではできるだけ実施の方向で考えています。変更等に関しては、その都度お知らせしていきます

いま、子どもたちに全校共通で指導を強化していることが3つあります。

①登下校の際に校庭の真ん中を通らない。

②廊下・階段の歩行

③言葉遣い

以上の3点です。

①は、特に雨の日、雨上がりの時は校庭の土が柔らかくなって、そこを歩いてしまうと、乾いた時にデコボコになってしまいます。体育の学習にも影響してしまうので、日常的に、登下校の際は真ん中を通らないという指導をしています。

②は、子どもたちは教室へ戻る時、休み時間校庭へ出る時、目的の場所に行く時など急ぐ傾向があります。急ぐ気持ちがどうしても走りたくなってしまいます。しかし、廊下・階段を走ることは事故やけがにつながります。「歩きましょう」という指導をしています。

③については、ぜひご家庭でもご協力をいただきたいことです。

「てめえ、ふざんけんじゃねえ。」「ぶっころすぞ。」「うざい。」「きもい。」などの言葉が聞こえることがしばしばあります。この言葉以外にも、言われている人以外にも聞いている人が嫌な気持ちになることを使っていることがあります。テレビで使っている言葉、お兄さんやお姉さんが使っている言葉、お父さんやお母さんが使っている言葉、町でたまたま耳にする言葉、教師が使っている言葉、など子どもたちは聞いた経験からその言葉を使うようになります。低学年のうち、意味もよくわからず使っていることもあります。年齢が上になるにしたがって、意味もわかっているのにあえて乱暴な言葉を使うことがあります。

言葉は環境によって大きく変わってきます。子どもたちは周りの大人が中心となってその環境を作っていくってあげなければなりません。叱る時も、感情的になるのではなく、育てていくというスタンスで言葉遣いにも気を付けていきましょう。われわれ教員もその点をしっかりと心にとめて指導をしてまいります。